

久慈地域のけん引型経営体間連携のための状況調査

県北広域振興局では、久慈地域の森林施業の推進に当たり、地域けん引型経営体3社(森林組合、素材生産事業体、造林事業体)の連携の方向性を模索するため、平成23年4~5月にかけて、事業体の強み、弱みなどに関する聞き取り調査を行いましたので報告します。

1 調査方法

経営体ごとに次の調査を実施しました。

- ① 連携する2事業体について、自社に対する強み、弱みの聞き取り
- ② 会社概要、売り上げの内訳とその割合
- ③ 久慈地域の森林施業の方向性

2 経営体の強みについて

森林組合では、顧客情報量、申請書類作成能力、社会的信用が強みとなっております。一方、素材生産事業体では、機械力や素材の販路確保、造林事業体では情勢の変化に迅速且つ柔軟に対応可能できる体制が強みとなっております。

3 経営上の森林整備の課題

森林組合では、総事業費に占める森林整備のウエイトが低く、収益性が上がらない状況となっております。この理由として、森林整備により発生する素材の量・形質が不安定であるため、工場への素材供給の安定が確保できないことが挙げられます。

素材生産事業体でも、同様の状況ではありますが、その理由は異なり、機械導入による皆伐・素材生産を主として行っているため、立木確保、販売先の確保に追われ、

事業費が小さい森林整備には時間を費やせないことが課題となっております。

造林事業体では、他の事業体に比べ、総事業費は小さいものの、森林整備の割合は高い状況となっております。さらに、素材生産事業体と連携し、素材の販路を確保しつつ、森林整備事業の導入促進を展開している状況です。

4 久慈地域の森林施業の方向性

得られた回答は次のとおりです。

- ① 森林林業再生プランへの対応が課題であり、今後の方向性が定まらない
- ② 天然アカマツ林は今後も育成
- ③ アカマツ人工林は形質が悪く・販路がパルプ限定のため、樹種転換が必要
- ④ カラマツ、スギ資源が少ないため、造林し、ある程度の資源確保が必要

5 今後の展開

久慈地域の林業の方向性を模索しつつ、新たな制度への対応を検討するため、地域けん引型経営体を対象に地域森林資源、丸太の販路に関する勉強会を行う予定です。



写真 素材生産事業体の状況